

船舶事故等調査報告書

平成26年6月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2013神第72号
事故等種類	浸水
発生日時	平成25年4月19日（金） 08時00分ごろ
発生場所	滋賀県草津市中島樋門西方沖（琵琶湖南東部） 草津市所在の山田四等三角点から真方位340° 2,400m付近 （概位 北緯35° 02.3′ 東経135° 54.4′）
事故等調査の経過	平成25年5月16日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	モーターボート <small>エキスパート</small> 1400GP、5トン未満
船舶番号、船舶所有者等	240-52504 滋賀、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型船舶操縦士
死傷者等	なし
損傷	船外機に濡損
事故等の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者1人を乗せ、琵琶湖南東部の中島樋門西方沖の釣り場で釣りを行っていた。</p> <p>船長は、風浪に流されたので、元の場所に戻ろうとしたものの、船外機が始動できず、漂流状態となった。</p> <p>本船は、船外機が始動しないので、船長が、レンタル会社の担当者に携帯電話で対応方法を問い合わせている間、同乗者が、波が打ち込んで浸水しないように船首部の船位保持用電動船外機を使用し、船首を波に向けるように操作していたものの、波が打ち込んだ。</p> <p>船長は、船外機が始動しない理由が分からなかったため、レンタル会社の担当者に救助を要請した。</p> <p>レンタル会社の担当者は、会社の所有船（以下「所有船」という。）で本船の救助に行き、船外機の推進器翼に本船の係留索が絡まっていることに気付き、本船を少し沖出しして係留索を外した後、船長に船外機を始動させ、所有船を追尾して滋賀県大津市苗鹿の船着き場に帰るように指示した。</p> <p>本船は、船外機が始動したので、同乗者が、船位保持用電動船外機を停止し、船尾操縦席の左舷側にある助手席に移動したところ、平成25年4月19日08時00分ごろ、船内に溜っていた水が船尾に移動して船尾が沈み、船尾端から浸水して通常の航行ができなくなり、所有船を追尾しようとしたものの、速力がほとんど出なくなった。</p> <p>レンタル会社の担当者は、本船が追尾して来なかったため、本船がいる位置に引き返した後、本船の浸水状況を確認し、航行するのは無</p>

	<p>理と判断して最寄りの湖岸に着けるように船長に指示した。</p> <p>船長は、レンタル会社の担当者の指示に従い、湖岸に着けた後、同乗者と共に湖岸に上がった。</p> <p>レンタル会社の担当者は、本事故後、110番通報を行った。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北北西、風力 4、視界 良好</p> <p>水象：波向 北、波高 約0.5～1.0m</p> <p>彦根地方気象台は、4月18日15時15分滋賀県全域に強風注意報を発表し、本事故発生当時も継続中であった。</p>
その他の事項	<p>船長は、ボートを借りた経験が何度もあり、操縦には慣れていたが、半年ぶりに借りたこと、及び本船が係留索を使用せずにスロープで着水させる船だったので、乗船の際、係留索の位置を確認しなかった。</p> <p>本船は、ブラックバス釣りに使用するモーターボートであり、操縦席及び助手席を除く甲板の高さが、ブルワークとほぼ同一で高床式になっており、甲板下の浸水状況が分かりにくい構造であった。</p> <p>船長は、ビルジポンプで排水作業を行ったが、浸水量が多く、排水作業が間に合わなかった。</p> <p>本事故当時には、本船の周囲に釣りをしていたモーターボートが何隻かいた。</p> <p>船長及び同乗者は、救命胴衣を着用していた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>あり</p> <p>あり</p> <p>本船は、強風注意報が発表されている状況下、中島樋門西方沖の釣り場で釣り中、風浪に流されたので、船長が元の場所に戻ろうとしたところ、船外機の推進器翼に本船の係留索が絡まって船外機が始動できず、漂流中に船内に波が打ち込み、船外機の始動後、同乗者が船首部から船尾方に移動したことから、船内に溜っていた水が船尾方向に移動して船尾が沈み、船尾端から浸水したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、強風注意報が発表されている状況下、中島樋門西方沖の釣り場で釣り中、風浪に流されたので、船長が元の場所に戻ろうとしたところ、船外機の推進器翼に本船の係留索が絡まって船外機が始動できず、漂流中に船内に波が打ち込み、船外機の始動後、同乗者が船首部から船尾方に移動したため、船内に溜っていた水が船尾方向に移動して船尾が沈み、船尾端から浸水したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水や波の打ち込みなどによる流動水は極力排水すること。

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 浸水に備え、バケツなどを携行することが望ましい。・ 船外機が始動しないときは、燃料やバッテリーのほか、推進器翼に係留索などが絡まっていないかどうかを確認すること。・ ボートを借りて乗船する際は、係留索などの備品を確認し、波浪などにより、船外へ落とさないように注意すること。 |
|--|--|